

別記様式

		担当課	教育部 教育総務課														
会議の名称	第1回 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会																
開催日	令和2年5月27日(水)																
開催時間	午前10時00分 開会・午前11時47分閉会																
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎 3階 303会議室																
出席者(委員)氏名 (出席者数)	石崎一記、日比暁美、酒巻和生、羽鳥守、牧田卓司、林義典、荻野浩、 鷹巣美和、鉢村優子、川島快友、佐藤芳隆 (11名)																
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	なし																
事務局職員職氏名	<table border="0"> <tr> <td>教育長</td> <td>武藤 宣夫</td> </tr> <tr> <td>教育部長</td> <td>齊藤 隆志</td> </tr> <tr> <td>教育部副部長</td> <td>清水 千之</td> </tr> <tr> <td>教育部副部長兼学務課長</td> <td>大島 進</td> </tr> <tr> <td>教育総務課長</td> <td>鳥沢 保行</td> </tr> <tr> <td>教育総務課副課長</td> <td>藤平 健司</td> </tr> <tr> <td>教育総務課副主査</td> <td>新井 洋平</td> </tr> </table> (7名)			教育長	武藤 宣夫	教育部長	齊藤 隆志	教育部副部長	清水 千之	教育部副部長兼学務課長	大島 進	教育総務課長	鳥沢 保行	教育総務課副課長	藤平 健司	教育総務課副主査	新井 洋平
教育長	武藤 宣夫																
教育部長	齊藤 隆志																
教育部副部長	清水 千之																
教育部副部長兼学務課長	大島 進																
教育総務課長	鳥沢 保行																
教育総務課副課長	藤平 健司																
教育総務課副主査	新井 洋平																
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(傍聴者4名)																
会議の内容	(議題) 1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 懇談内容 (1) 適正配置に関する基本的な考え方 (2) 審議会等の経緯 (3) 児童・生徒数の推移 (4) 今後の進め方 5 その他 6 閉会																

(決定事項など)

4 懇談内容

(1) 適正配置に関する基本的な考え方

(2) 審議会等の経緯 について

(懇話会委員の主な意見)

- ・コロナウイルス感染症の影響により、学校が休校となったため、学習面で子供たちの差が出るのを危惧している。格差をなくし、統一的な教育の機会を与えることが必要。
- ・「学習した結果」の平等ではなく、「学習する機会」の平等を確保することが重要であるため、小規模化により、良いところは多くあるが、小規模化した教育環境の中で、機会を奪われているとするならば、対処しなければならない。
- ・学校がなくなるのではなく、新しい区域の中に地域にとっての学校が新しく生まれ変わるといことが議論のスタートだと思う。
- ・小規模化により、先生の負担が大きくなると思われる。現実問題としては、ある程度の規模は確保できればと考える。
- ・教育心理学の研究を踏まえて言うと、社会に出ていくにあたって、存在価値の違う一人一人が集団の中で生きていくため、学校で他者の存在を活かした社会的発達のための教育を行うことが大切だと思う。
- ・自分とは違う観点、他者との葛藤を経験しながら育っていくのが児童期だと思うので、ある程度人数がいた方が良いと思う。

(1 学年 3 学級程度と考える)

- ・適正規模・適正配置の考え方には、地域の人々の思いが反映されていない。新しいものが出来るというのなら同調できると思うが、そうでなければ理解することは難しいと思う。
- ・地域の子供たちが、色々な学校に行くのではなくて、地域で同じ学校に通った方が将来的な人の繋がりもでき、社会性も育てられて良いと思う。
- ・新しいコミュニティが造られていくのは良いと思うが、あまりその議論に注力しすぎて、子ども達のことを蔑ろになるのは避けるべきである。
- ・大人同士の話し合いの中で、市の方針を一つにし、学校のあり方等を話し合ったうえで、子育てに繋げていければ良いと思う。
- ・地域で子供たちを育てるとい鴻巣市の方針は変えないでほしい。
- ・地域で育てるといことを大事にするということと、教育の機会を平等にして格差を防ぐという観点で、適正配置を考えていければよい。
- ・来年 1 年生に上がるお子さんの親は不安に思っている。

今の状況では、集まっての意見交換等はできないため、教育委員会や学校等からのどのような考え方なのか、どのように動いたらよいのかという情報を提供してほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・笠原小から、中央小への通学の変更について、保護者がアパートを借りたり、毎朝送迎したりと、負担は大きいと感じる。 バスの運行等を含めて、遠い将来のことと考えず、スピード感を持って対応することが必要だと考える。 ・笠原小の児童を送迎すると、新入生は中央小を希望されると思います。 自然消滅的に笠原小学校がなくなると思う。 ・他の地域ではそのような問題が起こっていないが、現実的に笠原小学校では起こっているため、来年度入学の保護者に対して、何らかの情報提供の機会を作してほしい。 ・小学校の統合が行われる場合、通学区が広くて距離が遠くなるとすれば、スクールバス等の支援も必要と考える。 ・平成 27 年～29 年に実施された適正規模・適正配置に関する審議会においては、当時は子どもに対する議論よりも、学校に対する思いの方が強かった印象がある。 ・適正配置等審議会における答申書の総論にある、市民への適正な情報提供に努めていただきたいということは、噂話や誤解を避けるためにも必要だと感じる。 ・鴻巣市を子育て環境日本一のまちにするため、大人としての立場を考えることよりも、最終的には子供が幸せになるということに絞って話し合えば、ある程度の方向性は出せるのではないかと感じる。 <p>(3) 児童・生徒数の推移</p> <p>(4) 今後の進め方 について</p> <p>(懇話会委員の主な意見) なし</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> ① 第 1 回鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会次第 ② 第 1 回懇話会座席表 ③ 【資料 1】 鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会傍聴規程 ④ 【資料 2】 鴻巣市立小・中学校の適正配置及び適正配置に関する基本的な考え方 ⑤ 【資料 3】 審議会、意見交換会等の経緯 ⑥ 【資料 3-1】 適正配置等審議会答申書の写し ⑦ 【資料 3-2】 通学区域審議会 諮問書の写し、答申書の写し ⑧ 【資料 4】 鴻巣市の児童・生徒数の推移

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記入し、記入事項が多い場合は、別紙に記入するものとする。